

鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成29年8月23日(水) 午後2時から
- 会 場 グランドエル・サン ローズルーム
- 次 第
 - 1 開会（進行：永壽政策企画課長）
 - 2 あいさつ（榎本鶴岡市長、石黒鶴岡市総合計画審議会会長）
 - 3 諮問
 - 4 協議（説明：政策企画課 粕谷地方創生推進主幹）
 - (1) 鶴岡市総合計画の策定について
 - (2) 鶴岡市の現状と課題について
 - (3) 鶴岡市のこれからのまちづくりで重視すべき事項について
 - (4) その他
 - 5 閉会

以下、委員発言の概要

人口関連

- ・人口減は阻止し難いとしても、交流人口をいかに増やしていくかに取り組む必要がある。
- ・例えば大学の付属高校の誘致なども人口対策に有効ではないか。
- ・人口減少の現状をみると、企業を持って来て働く場所さえあれば人口が流出しないのではないかと、安易な考えを持っていただけると感じる。
- ・市内には歴史的、文化的な施設や遺産があるが、こうした資源を活用して人の行き来を多くしていくことができればいいのではないか。
- ・人口ビジョンにおける平成72年の人口10万人維持を達成するためには、相当の覚悟と財政出動をもってやらないと実現できないと感じる。

若者支援

- ・県外から鶴岡に働きに来ている人に、家賃を援助するなどの支援をしてはどうか。
- ・優秀な指導者がいるところであれば、若者もUターンしてくるのではないか。若者はインターネットなど多様な情報収集手段を持っている。
- ・(学卒者の就職にあたっては)自分の能力を伸ばしたい、自分のやってみたい仕事に就いて生活していきたいという考えをよく聞く。役所で市内の教育機関に出向いて、多くの皆さんから、どのような仕事ならいいのか、どのような土地なら腰を据えて生活していく気になるのか、意見を吸収して今後の施策に生かしていくことも重要ではないか。
- ・若者にとって魅力のある職場の一つとして、先端研があるエリアがどのように成長していくのか、どういう青写真が描かれるのか、市民にわかりやすく、こんなふうに若い力が定着していくかもし

れないという夢と希望を語りかけていただきたい。

女性活躍

- ・(進学等で転出した)女性をいかに鶴岡にリターンさせるかを考える必要があり、魅力ある女性の職場づくりや仕事づくりが今後の大きな課題であるとする。
- ・出生減の問題は、女性が働き生計を立てることができるようになってきたことが関係していると思われる。女性に働くなと言うことはできないわけで、働きながらも結婚できて子育てしやすい地域をつくる必要がある。
- ・行政が働きながら子育てする女性を支える必要がある。
- ・若者の安定した就職先は少なく、特に女性の就職先は少ない。どうしたら確保できるのか、商工業者や行政でプロジェクトチームを作って、真剣に取り組んでいただきたい。
- ・若者のUIJターンを呼び込む必要があり、特に女性が働く場所や、あるいは子育てしやすい環境づくりが必要で、政策の中で女性活躍促進や男女共同参画推進など、女性を応援しますというところを目立たせていただきたい。

高齢者活躍

- ・高齢者でも元気であれば、社会のために何か役立つことをしたいという人がたくさんいる。助け合いの軸をつくりながら、一人ひとりを地域社会で明るく、元気よく、楽しく活躍できるように工夫していく必要がある。

情報化社会

- ・(スポーツの面でも)少子高齢化の問題は深刻であり、競技団体では優秀な選手を育成しても、それに続く選手の輩出や、あるいはそれを育てる指導者がなかなか見つからない。情報収集に努めても、これだけ情報量が多い中であって、実際は必要な情報が効率的にながれていないという現実があるように感じる。効率的、有効な情報の流し方を工夫する必要がある。
- ・市から市民への情報伝達がスムーズに、リアルタイムに行われていないところが出てきているように感じられ、心配である。ホームページやSNSが中心になってきている一方で、高齢社会の中では紙媒体の情報伝達も依然重要であり、併用していく必要がある。

市民生活分野

- ・人と人との繋がりや、信頼、ネットワークといった社会関係性を豊かに保つ方法を考える必要がある。
- ・他人事ではなく自分事としてまちづくりに取り組む市民を増やしていけるかということが大変重要だと思う。
- ・地域のまちづくりを引っ張っていく地域リーダーというものを育成していくことが大変重要だと思う。地域の中でファシリテーションとかコーディネーションをして人々を繋ぎ、信頼やネットワーク、あるいはお互いさまの気持ちといったものを意識的に育てていくことが、地域づくりを進める

上で非常に重要と考える。

- ・婚活事業は継続が重要であり、支援を継続して欲しい。

健康福祉分野

- ・出産適齢期の女性から来てもらって、その方々の未婚率を下げ、心配なく出産・子育てができる環境をつくっておかなければならない。そのためには、子育てにかかる費用を軽減することと、核家族化で孤立しがちな世帯に対する丁寧な支援に相当力を入れなければならない。
- ・若い父母が安心して働きながら子育てできるように、0歳児保育の施設を各地域に設けようか。

教育文化分野

- ・地元に戻ってくるような育ち方、育て方をしていかなければならない。
- ・教育と道德の問題を、市としても何とかしていかなければならない。

農林水産分野

- ・(新規就農、移住促進については、)関係機関と一緒に、農地だけではなく、住宅や機械、技術など様々な面で後押しできればよいと思う。
- ・UIJ ターンを考える上で、新しい先端産業を含めた雇用創出も大切だが、農業が基幹産業であり続けなければ、日本の地方都市の中での役割を果たせないと思う。首都圏や都市圏から、一定の仕事をしてきた方たちに、農の応援隊、食の応援隊という形で援農をしてもらおうということも考えられる。

産業振興分野

- ・古いものに新しい光を当てながら、世代間の絆をつくる活動を行う必要がある。中核となるのは、鶴岡らしい「祭」なのではないか。

社会基盤分野

- ・人口については、減ることを前提に考えることが現実的であり、次の10年ではコンパクトシティ鶴岡の具体像を描く必要がある。郊外を含め公共交通機関をどういうふうに変えていくかを考えることが、観光などの交流人口拡大や住みやすさの向上につながる。
- ・駅前、FOODEVERから、市内中心、新文化会館に繋がる線の元気さを取り戻して、これこそ鶴岡をというものを示して欲しい。

計画の策定・推進

- ・人口減少をはじめ、状況の急速な変化を考えると、基本計画は5年間と言わず3年間程度で見直しが必要なのではないか。
- ・第1次総合計画の展開途中に、国主導のもとに「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が入ってき

たわけだが、鶴岡市としてはどの程度国の政策を取り込んだ経過があるのか、現時点での評価も必要ではないか。

- ・支所長の権限や財政措置など、旧町村の地域特性を発揮させ、活性化させるという視点も必要ではないか。

- ・国の事業をどう上手く活用するかということが一つの知恵かと思う。

- ・皆さんの意見によって市政の基本的な流れをつくっていくということも大事だが、まちづくりのプロ中のプロは公務員であり、公務員の能力を上げなければならない。その教育には、スピードとコスト感覚を取り入れる必要があり、民間にもぜひ意見を聞いて欲しい。

- ・計画の策定プロセスが大切であり、ぜひ若い人たちが本音を言える場をつくって欲しい。若い人たちの姿が見えるような市民ワークショップというのを、ぜひ活発に行っていただきたい。

- ・ここで生きたい、終わりたいというすべての年代の男女を対象に、安心と支えあいのまちづくりを進めていかなければならない。